

平成 19 年 12 月 21 日

販売店各位

最新情報

# HOT！な情報報告

建通新聞にて、首都大学東京様の  
プロジェクトが紹介されました！

11月30日（金）発行の「建通新聞」にて、首都大学東京様がプロデュースする、CO<sub>2</sub>排出量削減のプロジェクトが紹介されました。

11月16日の「HOTな情報報告！」でご紹介させて頂きました、名工建設株式会社様と首都大学東京様が共同で行った実験についても紹介されておりますので、今回の記事と併せ、改めて送付させて頂きます。

内容に付きましてご不明な点等ございましたら、お問合せ下さい。

※今後、この情報をメールでの受け取りをご希望の方は、[sistacoat@mwa.biglobe.ne.jp](mailto:sistacoat@mwa.biglobe.ne.jp)まで、「HOT！な情報メール受信希望」とメールをお願いします。次回からメール送信します。

株式会社日進産業



## 首都大学東京 産学官でCO<sub>2</sub>削減対策

「一般的な一戸建て住宅のCO<sub>2</sub>排出量なら約50%の削減が可能だ」。夏場は断熱効果、冬場は保温効果を持つセラミックを応用した建材の研究が首都大学東京システムデザイン学部の手で進められている。セラミック応用建材の研究は同学部が民間企業の協力を得て進める産学の共同プロジェクト。2008年度には東京都からの財政支援も受ける見通しで、産学官が連携して研究課題に取り組む。研究代表者の川上満幸システムデザイン学部長は「来年7月に開かれる洞爺湖サミットに成果の一部を報告したい」と自信を見せている。



貨物輸送コンテナを使って行われた実験では、コンテナの全面にセラミック塗料を施すことで、通常のコンテナ



「3年以内に試作品を開発したい」と話す首都大学東京の川上満幸システムデザイン学部長

れているため、航空機・船舶・自動車などへの利用はもちろん「将来は衣類への利用も考えている」（川上満幸）。川上学部長は「埋め込まれたセラミックは、名工建設など建設関連企業も研究メンバーに名を連ねる。20年度までにCO<sub>2</sub>排出量25%削減（2000年比）を目指す都も、セラミック応用建材の研究を後押しする考えだ。都環境局は08年度予算に1億0700万円を要求しており、研究費の補助で首都大学東京の取り組みを支援する。川上学部長は「埋め込まれたセラミックは、民間企業も参画している。川上学部長は「埋め込まれたセラミックは、民間企業も参画している。川上学部長は「埋め込まれたセラミックは、民間企業も参画している。」

# セラミック応用建材の研究開発 CO<sub>2</sub>排出量「半減も可能」

一戸建て

セラミック系材料を

能。高反射塗料のよう  
に直射による熱を反射  
塗布式の断熱塗料とし  
て住宅、マンション、  
オフィスビルなどにすべ  
ての建築物に導入が可

る。

首都大学東京では、  
これまでの実証実験  
で、セラミック塗料が  
持つ優れた断熱・保  
温効果を実証済み。

ナと比べて最高16・8  
度の低減効果があっ  
た。

さらに、集合住宅で  
行われた実証実験でも  
効果が証明された。26

度に空調設定された二  
つの住宅を比較する  
と、室内温度は外気  
温と最大2・06度マ  
イナスになったとい  
う。

セラミック応用の材  
料は建築用にとどまら  
ず、他分野への汎用性  
が高いのが特徴だ。そ  
も、宇宙ロケット  
の断熱材技術が応用さ  
されたままでは中小

都大学東京では今後、  
製品化に向けて新たな  
実証実験を開始する。  
ことし6月、モンゴル  
国立大学と国際交流協  
定を締結した同大で  
は、モンゴルの遊牧民  
が住む「ゲル」に着目。  
このゲルにセラミック  
塗料を使用し、1年を  
通じた断熱・保温効果  
を検証する。

川上学部長は「3年  
以内に試作品の開発に  
こぎつきたい」と今後  
の研究を展望。共同研  
究に参加する民間企業  
も引き続き受け付けて  
いるという。

官民の支援を得る首

民の支援を得る首